



犬山  
つがおかんのん  
繼鹿尾觀音  
寂光院

研修道場 聖德殿



一、以和為貴



二、篤敬三寶

聖德太子・十七条憲法

一、和を以て貴しと為し、

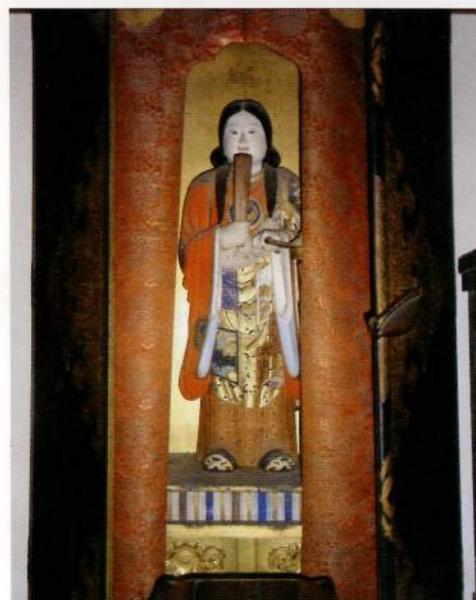
(さからくこと無きを宗とせよ。)

二、篤く三宝を敬え。

(三宝とは仏法僧なり。)

(詳しくは四頁を参照)

「篤敬三寶」 法隆寺管長 佐伯定胤師筆



聖德太子が十六歳の時、父親である用明天皇の病氣平癒を祈願されているお姿

聖德太子・孝養像

**殺してはいけない！**

なぜ人を殺してはいけないのか、という「なぜ」に対する回答は十人十色、千差万別でしあうが、結論はすべて「だから殺してはいけない」ということに尽きます。「だから平和憲法を守らなくてはならない」のです。お釈迦様は次のように説いておられます。

すべての者は暴力におびえている

すべての者は死をおそれてている

(他人を) 自分の身にひきあてて、

殺してはならない

殺させてはならない



## 命尊

し

犬山・寂光院山主

松平 實胤

(殺すことを傍観してはならない)

命尊し！  
(殺すことを傍観してはならない)  
(法句經一二九)

「命」とは、「息の力」のこと、「生きる力」のことです。私には今命が

あります。私は今息をしている、息の力がある、生きる力がある、だから生きています。さてこの息ですが、私は六十九才です。ということは六十九年間息のしつばなしで休んだことはありません。寝ても覚めてもいつでもどこでもです。

さて、この今のこの一息は私の誕生のその瞬間から六十九年間絶えたことはありません。いや生まれる直前まで母が代わりに息をしておりました。

私は今、「仏様から戴いた命」を生きています。

私は母と息の力、命がつながっています。当然父と繋がっています。しかし、今があるということは始まりがあったということです。その始まりを求めるべく、それは人類の起源でしょうか、生命の起源でしょうか、ビッグバンでしょうか、とにかくこの今の私の一息はずつと繋がっています。こんなちっぽけな私ですが、限りない時の流れが私を支えています。すべての条件が整つて私は生まれてきました。つまり計り知れない条件がこの私を支えています。それほどまでの私の命です。それほどまでのあなたの命です。それほどまでのみんなの命です。

「命尊し！」としか言いようがありません。

中学生の皆様へ

## 「命」についての出前授業



(松平實胤・記)

あちこちの中学校からお招きを受けて「命についての出前授業」に出かけています。全校生徒を相手に話をしますので会場は体育館です。私は舞台の上の演壇で話をすることが苦手ですので、舞台を降りて気楽に生徒さんの中に分け入って話をします。しかし、生徒さんは五十分もの間、窮屈な姿勢でじっと座つて聞くのですから大変です。しかし、どの学校の生徒さんも聞く態度ができていて、熱心に聞いてくれます。もちろんどの学校にも、個性豊かな生徒さんやら、元気すぎり生徒さん、ツッパリ君もいますが、むしろ僕はそんな生徒さんが大好きで、歩み寄つて言葉をかけたり、対話したりするなど、話に乗つてきてくれます。また、生徒さんにこちらから質問したり、逆に質問されたりしながら話を進めますが、五十分はあつという間の出来事です。最後に生徒代表が、出前授業の総括とお礼の挨拶をしてくれのですが、実に内容も的確です。孫のような中学生の皆さんから教わることも多く、この出前授業は私にとってとても楽しみな時間です。

秋

に「紅葉」のきれいなお寺は、  
は「青もみじ」がきれいです。



同じく四月末から五月はじめは「山つつじ」と「シャガ」が清楚です。  
六月は、梅雨空の下で、「アジサイ（紫陽花）」が七変化して妍を競います。  
七月は、「桔梗」があちこちで可憐な花を咲かせます。  
梅雨明けを待ちかねて「百日紅《さるすべり》」がピンクの花を一杯咲かせます。その名のとおり百日ほどの長い間咲き続けます。

(畏友、奈良薬師寺副住職・村上太胤師、新緑の美しい五月二十日来山)

村上太胤師とは四十年來の友人です。お互に多忙ということで長らくご無沙汰でしたが、五月二十日に「忙中に閑?」ということで、ひょっこり訪ねてくれました。さて、私と村上太胤師とは不思議な縁を感じます。

### 「○胤」、「實○」の系譜

私の名は「松平實胤」といいますが、よく皆様から、「奈良の薬師寺と何か関係がありますか?」と尋ねられます。なるほど、薬師寺の歴代の皆様は皆「胤」が付くからです。現在の管長様は山田法胤師、前管長は安田暎胤師、その前が、松久保秀胤師、高田好胤師・・・と皆様それぞれ「○胤」です。



實胤と太胤師

村上太胤師は薬師寺管長・高田好胤師の弟子で、お師匠様は薬師寺管長の橋本凝胤師です。また橋本凝胤師のお師匠様は法隆寺管長であられた佐伯定胤師です。

実は私の祖父(得度式の戒師)は真言宗智山派管長で總本山智積院化主を務めた松平實亮大僧正です。祖父は学生の頃、法隆寺勸学院で佐伯定胤師について唯識、法相を学んだということでした。佐伯定胤師は法隆寺の管長であると同時に高名な学僧でいらっしゃいました。祖父はいずれ縁あるものが得度した暁には佐伯定胤先生の「胤」を戴きたいと申し出られたそうです。さて私の法縁のものはすべて「實○」です。私の戒師は「實亮」、私の師僧は「實禪」、法兄は「實城」です。ですから、「實胤の胤」はわかりますが、しかし「實胤の胤」にはそんな故事來歴があるのだ、と師僧である父から聞か及んでいます。

ということで私は全く薬師寺と無縁ではあります、ほんの少しだけ縁を感じます。

### 聖徳殿の「大額」

私は昭和四十八年当寂光院の住職になるのですが、当山には聖徳殿(昭和五年建立)という研修道場があります。この聖徳殿は聖徳太子をご本尊とする百疊敷きの仏殿があり、そこには聖徳太子の十七条の憲法第一条の「以和為貴」(和を以て貴しと為す)の大額、並びに第二条「篤敬三寶(篤く三宝を敬え)」の大額があります。前者は昭和五年当時の四天山寺の管長様、後者は法隆寺の管長様の揮毫です。実は後者はなんとあの「佐伯定胤」師の揮毫です。そして、私の二代前、聖徳殿建立当時の住職は「岩田大法大僧正」です。その岩田大法師は「佐伯定胤師」と親交があられたとうかがっています。



聖徳殿の大額(表紙参照)

### 寂光院は法相宗の学山

寂光院の開山上人は「道昭和尚」です。この道昭様は遣唐僧で、三藏法師で名高い玄奘様について唯識、法相を学ばれ、帰国後、日本の法相宗の祖となりました。薬師寺、興福寺は道昭様ゆかりの法相宗の大本山です(法隆寺は昭和二十五年まで法相宗でしたが、現在は聖徳宗)。ということで道昭様ゆかりの寂光院も長らく法相宗の学問寺として中世にはあまたの学僧が全国から相集うお寺だったそうです。

ということで、薬師寺の村上太胤師の「胤」と、松平實胤の「胤」は「なんざら無関係でもない!」ということに落ち着きました。

# 寂光院友の会 千手会

心豊かに生きる喜び

寂光院は交通至便の処にありながら大自然に囲まれ、清爽の気が漂う、愛知県下最古の千手観音さまの靈場です。昨今「天下のパワースポット」として若人に人気で参詣する人々に「安らかな心」「生きる勇気」プレゼントします。「千手会」は寂光院の本尊様である千手観音さまから戴いたお名前です。

## 千手会の催事

(非会員の方も参加費をご負担下されば聴講できます)

### やすらぎ説法

- 行催日 毎月第2日曜日
- 時 間 午前11時～12時半
- 場 所 聖徳殿
- 講 演 松平實胤山主



8月9日（日）

12：30開場 13：00開演  
九万九千日記念講演会  
「楽しい仏教教室」  
ひろさちや先生



11月8日（日）

10：30開場 11：00開演  
千手会総会・記念講演会  
「お天気よもやま話」  
NHK名古屋放送局  
気象キャスター  
寺尾直樹先生



11月22日（日）

10：30開場 11：00開演  
桂文治独演会



### — お出かけ案内(月例行事)仏教を体験する —

5日	10:30	なな 七七月まいり 隨求菩薩ご縁日 大護摩祈祷、やすらぎ法話
18日	10:30	なな 七七月まいり 千手観音ご縁日 大護摩祈祷、やすらぎ法話
	14:00	ご詠歌教室〈仏さまにお唱えする〉 講師 松平實城僧正(名古屋・福生院住職)
第1日曜日	11:00	阿字觀(瞑想)&ブチ写経&ブチ法話 静かな仏前で本来の自分に出会うひととき!
第2日曜日	10:00	お写経〈般若心経を読む書く〉
	11:00	やすらぎ説法(上記参照)
第3土曜日	13:00	写仏教室〈仏さまを描く〉 講師 前田道雄先生(中日文化センター講師)
第4日曜日	11:00	お写経の集い〈般若心経を読む聞く書く〉

阿字觀・お写経は上記に限らずいつでもご用意致しておりますのでお電話下さい(要予約)

お問い合わせ 0568-61-0035

詳しくは

犬山寂光院

検索



**平成二十六年 九万九千日記念慈悲行**

(二十七年十二月末完成予定)

**寂光院 内仏堂**

**御本尊『千手観音』像**

(南北朝時代作)

**解体修復事業・進捗状況**

六百余年の間、計り知れない沢山の人々が参詣祈願されたご尊像は、その祈りを受け止められたが故か、痛々しいほどのお姿でございました。ただいま解体修復作業を進めておりますが、あと半年ほど（二十七年十二月末）で完成の予定でございます。六百年余の月日を経て今に至る古仏です。慎重に修復を進めています。

(愛知仏像修復工房・報告)

**平成二十七年 九万九千日記念慈悲行**

**寂光院 内仏堂**

**御本尊『千手観音像』安置**

(南北朝時代作)

**「御厨子」(南北朝時代作)**

**解体修復事業 発願**

ただいま修復中の千手観音像が完成後お入りになる御厨子も南北朝時代のもので、六百年の月日が経っています。本格的な解体修復が必要とのことで、修復を発願いたしました。千手観音像の修復完成と相前後して御厨子も完成の予定でございます。皆様方のご信援ご協賛を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

**御奉納 敬称略**

◎微笑み地蔵さま

各務原市 長坂眞紗子



◎蓮華

各務原市 二宮 愛子



◎十二支芳名碑

卯年・	各務原市
辰年・	一宮市
午年・	西東京市
申年・	春日井市
古田	的場
白石	君枝
隆照	上田
詠人	信子

平成二十六年度 九万九千日記念慈悲行 順不同敬称略

◎大慈悲会員

各務原市

山本一明

◎慈悲会員

犬山市

福玉精穀倉庫(株)

小牧市

福玉株式会社

江南市

福玉米粒麦(株)

大口町

福玉ロジスティクス(株)

扶桑町

あいち腰痛オペクリニック

名古屋市

大宝運輸(株)

名古屋市

福生院

犬山市

渡邊初江

◎篤志会員

犬山市

有(株)大沢瓦店  
キトウ商会

新栄工業(株)  
島板金工業(株)

永井ビル  
東海SUNKIY

はぐろ薬局  
本多石材店

永田法務測量事務所  
名鐵大酒店

大山ホテル  
名鉄モウルド

昭和運輸(株)  
大昭イム技研(株)

吉香  
奥村佛具店

弘法屋本店  
竹中工務店

名古屋鐵道(株)  
名古屋紙商店

名古屋啟印刷(株)  
名鐵觀光サビス(株)

八幡ねじ  
東海企業(株)

リック倉庫(株)  
羽工産(株)

名古屋市  
扶桑町

北名古屋市  
可児市

犬山市  
扶桑町

北名古屋市  
大口町

名古屋市  
市町

東可名  
京兒市  
都市市

犬山市

水鴨八  
戸川王  
市市

一宮市

扶桑町

名古屋市  
瀬戸内保険労務士事務所

◎協賛会員

赤川商店  
犬山建設(株)  
岩田コヒー店

大野屋  
ごとう歯科  
サムテック(株)

慢酒造(株)  
大金螺子製作所

犬山衛生社  
犬山燃料(株)  
うな久

花中(有)東洋自慢  
大野屋(株)

大山電機工業(株)  
村田寅屋

大澤商店  
美乃又住宅設備(資)

花園(有)藤原商店  
花園(有)花園

日化工業(株)  
尾関帶雨堂

栗田商店  
栗田商店

間瀬社  
間瀬社

利三郎商店  
利三郎商店

茶房  
茶房

榮興製刷(株)  
榮興製刷(株)

新和印  
新和印

半井工場  
半井工場

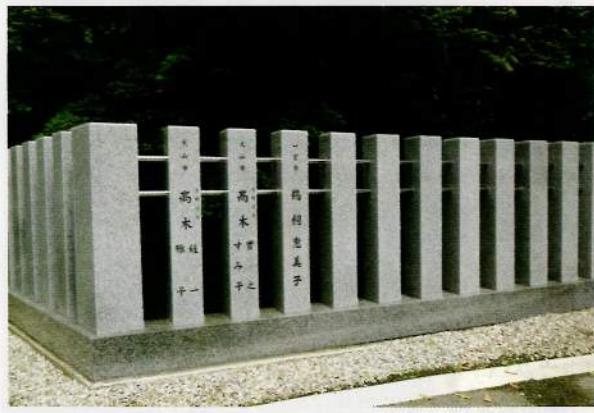
松原三  
松原三

長谷川良夫  
長谷川良夫

大島康二  
大島康二

玉垣御奉納ご芳名  
順不同敬称略

一宮市	犬山市	小牧市	各務原市
犬山市	犬山市	堀安俊介・由記子	
鵜飼恵美子	伏屋	高木	
	可児	実之・すみ子	
	才二	鈴一・雅子	
	忠清・千恵子	溥・弘子	



観音坂入口

お申し込み受付中!!

玉垣建立のおすすめ

## 寂光院友の会 千手会ご案内

千手会は寂光院に心を寄せて戴いている皆様の集いです

千手会にはわざらわしい制約は一切ありません

千手会はすべて自由参加です 是非ご入会下さい

### 【催事】

一、千手会員は全催事に出入り自由です

一、本紙四頁～五頁をご覧下さい

きりとり線

## 千手会申込書

(特典はホームページをご覧下さい)

正会員(一口三万円) 口 円  
賛助会員(一口三万円) 口 円  
右申込致します



## 月例大護摩祈祷<祈りの淨火>

お護摩の淨火で月

に一度、清新な自

分を取り戻す。お

護摩の淨火で月に

一度、仏様のお力

(如来加持力) で

生きる力を!!



●行催日 毎月五日・十八日  
●時 間 十時半～十二時

月例大護摩祈祷の後、三十分ほど  
松平實胤山主の法話

●場所 本堂

五、〇〇〇円以上

●ご祈祷志納 (大護摩礼授与・ご郵送も可)

●お申込み 当日の十時迄にFAXかお電話で  
その他の名鉄犬山遊園駅より直通バスがあります。

電話 氏名

年 月 日

おとし

七力月お参りすると「大願成就」!!

七七月まいり(心を養う)

○五日 健康長寿 大隨求菩薩縁日  
○十八日 一心祈願 千手觀世音縁日  
・各十時半より、

大護摩祈祷と松平實胤山主の  
「やすらぎ法話」  
・犬山遊園駅より直通バスあり

## ご縁の日がご縁日

七七月まいりは「月参り」です。いつでもご都合のよろしい日がご縁の日(縁日)  
【七七月まいり】の受付は年中無休です。

寂光院への連絡方法	
①電話	0568(61)0035
②FAX	0568(61)5953
③〒振替	00800-4-40664
④ホームページ	<a href="#">犬山寂光院</a> <input type="button" value="検索"/>

発行所 繼鹿尾觀音  
愛知県犬山市繼鹿尾山  
平成二十七年八月九日発行(第五十三号)  
〒484-1009  
寂光院